

手引き⑫

★適切な表現に強くなる

豊かな表現をするためには、言葉の決まりを覚え、伝えたい事柄に応じて、語句の意味や表現技法を考えて、使い分けていく必要があります。

適切な表現をするために

文体	助詞の使い	接続詞及び接続詞と同じ働きをする語の使い方	ことわざ、慣用句などの使い方	対応と呼応	気をつける項目	正しい表現	留意点
					①主語と述語の対応に気を付ける。	②呼応の副詞に気を付ける。	私が好きなスポーツはテニスです。
一続きの文章の中で、常体と敬体が混ざらないように気を付ける。	文脈に合った助詞を用いるように気を付ける。	①文脈に合う接続詞を用いるように気を付ける。 ②接続詞と同じ働きをする語の使い方に気を付ける。	①文脈に合う接続詞を用いるように気を付ける。	伝えたいことに合うように適切な言葉を用いるように気を付ける。	私が好きなスポーツはテニスです。	A 呼応の副詞を使わない場合 ・彼はまちがったことは言わなかった。 B 呼応の副詞を使った場合 ・彼の言うことは決してまちがっていない。	↓誤った表現の文例と留意点※ ↓私が好きなスポーツはテニスをすることです。 ※主語と述語の対応がおかしい。 ↓彼の言うことは決してまちがっていた。 ※呼応の副詞「決して」は、否定の語「くはない」を伴わなければならない。
A 常体で書く場合 ・母の誕生日だ。僕は花束を贈ろうと思う。 B 敬体で書く場合 ・母の誕生日です。僕は花束を贈ろうと思います。	笑顔の美しい人がだれにとつても気持ちのよい印象を与えることは、確かなことです。	私はそのことを知っています。なぜかという、前に一度聞いたことがあるからです。	雨が降った。しかし、体育大会は実施された。 りんごが好きですか。それとも、みかんですか。	中学校の三年間は長いようで短い時間です。大切に過ごしましょう。 ※使い方のよく分からない言葉を無理をしてまで使わず、自分の言葉で書く。	雨が降るから、外出しない。	※この場合は、対比・選択の接続詞を使う。 ↓私はそのことを知っています。なぜかという、前に一度聞いたことがあります。 ※接続詞「なぜなら」と同じ働きをするので、「くから」が必要。 ↓雨が降るのに、外出しない。 ※前後の関係が普通に考えられるとおりの内容なので、順接の接続助詞を用いる。	↓笑顔の美しい人は、だれにとつても気持ちのよい印象を与えることは、確かなことです。 ※一文が長くなったため、助詞「が」は「の」の使い方を混同している。 ↓母の誕生日だ。僕は花束を贈ろうと思います。 ※常体（くだ。くである。）と敬体（くです。くます。）とを混ぜて使うことは、原則として避ける。